

**「清田明宏 国連パレスチナ難民救済事業機関（UNRWA）保健局長による講演会」
開催のお知らせ**

国際保健の仕事は、勤務地や業務内容によって多種多様です。そして、時に地政学上の問題が重なり、非常に複雑（怪奇）となります。その中で仕事を続けるには何が一番大切か？強い専門性と言われますが、実はそれだけではありません。一番大事なのは考える力（critical thinking）です。これがないと、どんな専門家も役に立ちません。現場で答えが見つからないからです。そして、不条理に対して怒る力が必要です。人々の不健康の背景には、ひどい inequality があります。それを理解し、心の中だけでも怒り、涙しないと、人々の健康問題は語れません。本講演では、清田先生が日々、考え、心の中で怒り、業務を続ける中で感じる苦悩や、喜びについて赤裸々に語って頂きます。

清田 明宏先生は、国連パレスチナ難民救済事業機関（UNRWA）の保健局長で医師でもあります。高知医科大学（現・高知大学医学部）卒業後、米国海軍病院インターン、結核研究所での勤務を経て、世界保健機関（WHO）で約 15 年間、中東など 22 カ国の結核やエイズ対策に従事されました。2010 年から現職に携わっています。中東の結核対策では、患者の服薬を直接確認する療法「DOTS」を導入し、高い治癒率を達成されました。その功績が認められ、第 18 回秩父宮妃記念結核予防国際協力功労賞を受賞されました。また、今年 5 月、集英社新書より「天井のない監獄 ガザの声を聴け！」を出版されました。

(<https://shinsho.shueisha.co.jp/kikan/0976-b/>)

- 日時** 2019 年 8 月 27 日(火)17:30-19:00(受付開始は 17:00)
- 会場** 国立国際医療研究センター研究所 AB 会議室
- アクセス** <http://www.ncgm.go.jp/access/>
AB 会議室までのアクセス
(病院内からはパスがないと途中のドアが開かないため、お手数ですが、外からお回り下さい。)
- タイトル** 「考える力と怒る力:国際保健の現場で私が学んだ最も大事なこと」
- 言語** 日本語
- 参加費** 無料・事前登録制

対象者 国際保健、緊急人道支援、パレスチナ難民支援などに関心を持つ社会人・学生 100 名

共催 国立国際医療研究センター グローバルヘルス人材戦略センター及びグローバルヘルス政策研究センター